

事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日（主幹等）	31年3月31日
2次評価日（課長等）	31年3月31日

1 事業名	地域幹線道路整備促進事業			コード	141101	
2 担当部課	部等	建設水道部	課等	都市計画課	作成者	真田 健
3 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち			
		政策	交通網の整備	施策	道路の整備	
		予算科目	地域幹線道路整備促進事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし	

●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	* 対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	県街路事業岡谷川岸線道路整備と主要地方道岡谷停車場線の無電柱化事業		
目的	対象者	道路沿線住民及び道路利用者	
	意図	道路拡幅や歩道整備により、通行車両、歩行者等の安全を確保する。	

5 事業の必要性	* 事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由		
<p>県街路事業として整備されている岡谷川岸線は、小・中学校の通学路にもなっており、車道、歩道の整備により安全の確保が求められている。 周辺市町を結ぶ幹線道路であるため、令和元年度の完成を目指している。</p> <p>岡谷停車場線は、防災面や景観を配慮した電線類の無電柱化を推進し、より安全な通行空間確保に努めている。</p>			

6 事業の全体計画	* 各年度の取組計画		
予定全体事業費	岡谷川岸線1,500,000,000円 岡谷停車場線100,000,000円	事業期間	H16～R1年度（2年延伸） H28～R2年度（予定）
28年度まで	岡谷川岸線（第3工区） 用地買収、補償、道路築造工事の一部		
29年度	岡谷川岸線（第3工区） 岡谷停車場線	道路改良工事 詳細設計	
30年度	岡谷川岸線（第3工区） 岡谷停車場線	道路改良工事（R1年度完成予定） 電線事業者等協議、工事実施	
31年度以降	岡谷川岸線（第4工区） 岡谷停車場線	詳細設計、都市計画変更、事業認可申請 無電中化工事実施（R2年度完成予定）	

7 事業の実施内容	* 各年度の進捗状況		
28年度まで	◆岡谷川岸線	859,879,701円	負担率10% 85,987,970円
	県単独事業	23,133,600円	負担率15% 3,470,040円
	◆岡谷停車場線	2,653,560円	負担率15% 398,034円
29年度	◆岡谷川岸線	99,898,416円	負担率10% 9,989,841円
	県単独事業	4,924,800円	負担率15% 738,720円
30年度	◆岡谷川岸線	150,000,000円	負担率10% 15,000,000円
	県単独事業	22,800,240円	負担率15% 3,420,036円
	◆岡谷停車場線	648,000円	負担率15% 97,200円
前年度の課題への対応	事業主体である、長野県関係機関に対し事業促進要望活動を行った。		

8 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度まで(累計)	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	89,856,044	10,728,561	18,517,236	10,881,000
経常経費	0	0	0	
臨時的経費	89,856,044	10,728,561	18,517,236	10,881,000
* 臨時的経費の説明	地元負担金			
② 人件費		6,400,000	6,400,000	6,400,000
正規職員の人数(人)		0.80	0.80	0.80
③ 合計コスト(①+②)	89,856,044	17,128,561	24,917,236	17,281,000
前年度比			145.5%	69.4%
財源	9,056,044	7,528,561	8,417,236	7,781,000
一般財源				
内訳	80,800,000	9,600,000	16,500,000	9,500,000
* 特定財源の説明	都市計画事業債（岡谷川岸線・岡谷停車場線に伴う金額）			

●事業の評価 (CHECK)

9 事業の進捗状況

区分	28年度まで(累計)	29年度	30年度	31年度(予算)
進捗率				
直接事業費の執行率				
その他の進捗率	54.5%	61.0%	72.1%	
* その他の進捗率の説明	総事業費の負担割合相当額に対する進捗率(負担金合計/165,000千円)			

(これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと)

今までは 厳しい財政状況の中、交付金事業などによる投資が減少しているため、継続的な予算確保が困難である。

(31年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること)

今後は 限りある予算の中、より効果的な事業推進を要望する中、早期完成を目指していく。

●改善の内容 (ACTION)

10 今後の課題と対応策

今後の課題	(環境変化を考慮して事業を進めていく上で、31年度以降に課題になること) 早期完成に向けて、県、地権者、地元関係者と調整を図る。
課題への対応策	(上記の課題をふまえて31年度に実施する、具体的な対応方法) 事業の進捗状況の把握や課題解決の調整など、関係機関と協議を行う。

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---